

## 10/30 列王記第二 5章 8-19節 「主以外の他の神々に献げません」

小池 宏明 牧師

北イスラエルで活躍したエリヤの後継者エリシャは、どのような働きをしただろうか。その一例が、5章の前半に記されている異教の敵国アラムの将軍ナアマンとの関わりである。イスラエルの民は、主なる神様を忘れて、他の神々や偶像に仕えていたので、主はアラムという国を用いてさばきを下していた。その国の将軍がナアマンであって、地位や名誉があり、人望もあって立派な人物だったが、ツアラアト（皮膚病の一種）に冒されていた。ツアラアトは不治の病で、人々から隔離された。ナアマンの悩みと苦しみの種となった。

### \*ナアマンへの主の導き

主なる神様は、このナアマンを力強く導いて、敵国北イスラエルの預言者エリシャの許に導いた。ナアマン将軍は、沢山の贈り物を持って、エリシャの家の前まで来たが、10節「エリシャは、彼に使者を遣わして言った。「ヨルダン川へ行って七回あなたの身を洗いなさい。そうすれば、あなたのからだは元どおりになって、きよくなります。」」エリシャが出て来て、手を置いて癒してくれるものと思っていたナアマンは、激怒して帰途に就こうとした。本来は、主なる神様が為されることに、人間側が文句を言うことはできないはずだ。ナアマンは、主なる神様も神の人と言われる預言者も知らなかったのが傲慢になっていたのだ。ところが、主はナアマンに賢いしもべを用意して説得した。ナアマンは半信半疑で、ヨルダン川に下って行って、7回、身を洗ったらツアラアトが完全に治ったのだ。彼は再度エリシャの許に行った。そして、贈り物を受け取るように懇願したが、エリシャは、決して受け取らなかった。この癒しは、エリシャの業ではなく、生きて働かれる主なる神様の御業なのだ。

### \*真の神、主なる神様を拝するナアマン

主なる神様の御業を見たナアマンは、アラムに帰っても、主なる神様のために祭壇を築いて、主なる神様だけに礼拝をささげる決心をした。ナアマンは、これまで、アラムの王様が、首都ダマスコに祭っていたリンモン（嵐と雷の神）の神殿で、祭儀を行う時に、一緒に拝礼していたが、それを悔い改めたのだ。

### \*主なる神様のみに礼拝を

私たちも、かつては、主なる神様のことを知らずに、様々な偶像に頭を下げてきたナアマンと同じような立場だった。しかし、私たちの主なる神様は、真の神を知らない者も、人間が作った偶像を拝む者も、己の力を信じて生きてきた者も憐れんで、救い出して下さるお方なのだ。さらに、主なる神様は、私たちが突然の試練や病にあってもがき苦しむ時、実に不思議な方法で助けを与えて下さるお方でもある。